DBKだより

第18号
2017年1月31日
ドン・ボスコ基金

トピック

モンゴル・ダルハン 青少年の育成、霊魂の救いのために／ボリビア 学校建設支援のお願い
南スーダン 食料支援のお願い／ソロモン諸島 活動の報告／アンゴラ・ドンド「扶助者聖マリア学校」
ボリビア 長年のご支援に感謝

恩人の皆様

新しい年を迎えました。昨年も皆様からたくさんのご支援を頂き心から感謝いたします。今年もDBK［ドン・ボスコ基金］を通して、助けを求めている海外または国内のグループへの支援を皆様の寛大なご協力によって果たし続けたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2016年4月、熊本および九州各地で大きな地震がありました。私たちは「DBK熊本支援チーム」を立ち上げるとともに、カトリック別府教会に支援センターを設置し、皆様から熊本地震被災地の支援のために頂いたご寄付の一部を送金いたしました。また、カリタスジャパンの支援を受けてカトリック福岡司教区によって設置された「カリタス福岡　熊本センター」（社会全体を支援対象としている）および「日本カトリック学校連合会」（被災地のカトリック学校・幼稚園を支援）にも支援金を送金いたしました。本当にありがとうございました。

被災され、不自由な生活をされている皆様が、一日も早く元気に日常生活を取り戻すことができますように心からお祈り申し上げます。

新しい年に神様からの祝福が皆様方の上に豊かにありますように、DBKスタッフ一同はカトリック教会の最高の祈りとしてミサをお捧げします。

2017年1月
DBK［ドン・ボスコ基金］代表　山野内 倫昭（みちあき）神父

モンゴル・ダルハン 青少年の育成、霊魂の救いのために

シスター小島とモンゴルの子どもたち。サマーキャンプで。

私たちの修道院は首都ウランバートルと、そこから北へ4時間の所にあるダルハンの2か所にあり、ウランバートルでは幼稚園と小学校を経営しています。ダルハンではサレジオ会の神父様方と教会活動をしています。

2007年にサレジアン・シスターズの最初の宣教女がモンゴルに参りましたが、政府の扱いが厳しく、なかなか私たちの使徒職を実現することが困難です。

学校では宗教用品を置いてはいけないので直接宣教活動をすることはできませんが、私たちの宣教女としての存在をもって、また教会では様々な行事をとおして神様から一人ひとりが愛されていることを実感できるように努力しています。

何かの行事をするとき私たちの夢は大きく膨らみますが、いつもお金の問題に直面します。でも、お金がないからと私たちの青少年への善と愛を削ることはできません。神様に委ねて夢の実現に努めています。

ここで毎日オラトリオをしており、遊びに来る子どもたちがたくさんいます。しかし、宗教を嫌う人々が多く、以前、子どもを迎えに来た母親が、怒った顔で「ほかに遊ぶ場所はないの!」と言うのを聞きました。子どもたちは私たちが大好きですが、親が認めません。

2017年、モンゴルカトリック教会は25周年を迎えます。どうぞ、皆様からの応援で私たちの宣教を支えてくださいませ。神様からの祝福を祈りつつ……

（サレジアン・シスターズ宣教女　シスター小島華子）

ボリビア 学校建設支援のお願い

シスター竹山とカーザマインの子どもたち

ネットで検索し「ドン・ボスコの風かわら版」と「DBKだより」を読んでいます。いろんな人がいろんな方法で活動していることを知り感動しました。

私たちもヨーロッパの恩人の方々から少しずつ寄付を頂き、10年前に学校建設のための土地を所有しました。そしてやっと今、多くの方々の善意の寄付によって工事にとりかかりました。建物の外観は出来上がっても、内部の机椅子、黒板など最低必要なものを揃えるのは大変です。善意の方々に一部屋ずつ担当してくださるようお願いしています。

そこでDBKに給食室と食堂・遊具のご援助をお願いできないでしょうか。

現在、私たちの家、ストリートチルドレンの施設カーザマインには100人の幼児・児童が住んでいます。施設の子どもの立場はとてもみじめです。人手不足で生活指導が行き届かない事もありますが、教師の資質の問題が大きいと思います。ボリビアでは犯罪が蔓延しています。この状況を変えるために子どもたちに基礎的な学習指導と宗教教育を行う学びの場である私たちの学校は絶対に必要です。この学校建設プロジェクトの名称はCENTRO EDUCATIVO MARIA AUXILIADORAといいます。

私は2016年11月末から2017年4月まで日本へ一時帰国しています。ぜひ皆様にお願いのご挨拶をさせてもらいたいと思っています。

（サレジアン・シスターズ宣教女　シスター竹山敏枝）

南スーダン
食料支援のお願い

シスター下崎とグンボの子どもたち。家庭で何も食べていない子どもが多く、オラトリオの後に給食を提供している。

2016年7月、5回目の独立記念日に前政府の分裂が起こり、今も不安定な情勢が続いています。7月末から8月末まで、主任神父の強い勧めで私たちも国外退避し、ウガンダ国境の最大避難キャンプ近くの修道会でお世話になりました。ここに辿り着くまで、ウガンダ国内を転々とし、国外避難の大変さを体験しました。私たちは修道会を頼れましたが、南スーダンの難民は、行くあてもなくさ迷い、やっと難民キャンプにたどり着いても、力尽きて亡くなる人も多いと聞きます。私たちは、難民キャンプを何度か訪問し、その現状を目の当たりにしました。

私たちのグンボの教会の敷地内には2013年と今回の内戦で逃れて来た国内難民が4000人ほどいます。グンボ村には親戚を頼って一緒に住んでいる人もいて、これを合わせると、もっと多くの難民がいます。

今、最大の問題は食糧の不足です。教会敷地内の難民は国連からの食糧配布を受けることができますが、1か月に一度の配布でその量は1日に一度だけの食事の分です。さらに問題なのは村人達です。彼らは親戚が増えたにも関わらず、食糧配布を受けることができません。現金収入の少ない国民は、食糧不足で亡くなり、家族を養うことができず、自殺する父親もいます。

12月から乾季が始まり、10か月間は砂漠状態になって自然からの食べ物もなくなってしまいます。どうか、食糧支援のために寄付をお願いいたします。何の恩返しもできませんが、南スーダンの皆さんと共に感謝の祈りを捧げさせていただきます。

（イエスのカリタス修道会宣教女　シスター下崎優子）

ソロモン諸島
活動の報告

RTCの若者達とDBVGの若者達

ソロモン諸島テテレにあるRTC(Rural Training Center）は、ドン・ボスコの学校として地域の若者たちに農業技術だけでなく、信仰を大切にした共同生活を通してキリスト教的人間的な教育を行っています。地方の村から集まってきた若者たちに学びの機会を与え、彼らのうち数名はここでの生活に感化されて将来教育者を目指してさらに勉強を続ける者も出てきていています。サレジオ会は彼らに奨学金を与えながら将来の可能性のために援助しています。

テテレRTCの活動のために、これまでたくさんの支援がありました。そのおかげで集会ホール、女子寮、男子寮の建物等が建設され、施設はますます充実してきています。今後の計画として教室棟や教員ための新たな家の建設なども考えられています。毎年8月には日本からDBVG(ドン・ボスコ海外青年ボランティアグループ）の若者たちが現地を訪れ、学生たちと文化交流や農作業、フェンス設置作業等を通して交流と支援の活動を行っています。

（サレジオ会DBVG事務局長　三島心神父）

アンゴラ・ドンド
「扶助者聖マリア学校」

アフリカ南西部にあるアンゴラのドンドで、サレジオ会アフリカ・アンゴラ管区はカッソアララに新しい「扶助者聖マリア学校」を建設しています。日本のDBKのご支援のお陰で、ここまで建設が進みました。壁のペンキ塗り、トイレ、電線、そして教室の黒板や机など。DBKの皆様からのご支援に心より感謝いたします。これからも引き続

きお願いいたします。

（サレジオ会宣教師　エレーラ・マクシモ修道士）

建設が進む「扶助者聖マリア学校」

ボリビア
長年のご支援に感謝

ボリビアのサンタクルスへ1980年2月22日に到着して、早くも36年の月日が過ぎてしまいました。この長い年月にわたり、宣教司牧活動をご支援くださいましたDBK協力者のお一人お一人に感謝いたします。

さて、今日まで長年にわたり、DBKのご支援をいただき、3か所のカトリック養護施設に住む約500人の少年少女をはじめ、ストリートチルドレン、援助を必要とする気の毒な人々へ、日々の食物、経済的な援助を継続的に差し上げることができました。

この年月を振り返りますと、ご支援くださいましたDBK協力者の皆様もご高齢になられ、帰天された方、年金生活に入られた方、ご協力いただく方々も少なくなりつつあります。DBKのお知らせを通じて一人でも多くの新しいDBK協力者の方が増えることを願っております。

フランシスコ教皇は「無関心の病」の根絶を強調されています。「ただ一人の人が毎日ひとつの素朴な出合いに、あふれる慈しみの業を行うだけで変革が起こり、無関心病を根絶することができる」と指摘しています。今後は、喜ぶ人と共に喜び、悲しむ人と共に悲しみ、愛をいつくしみ、人々に寄り添うことを心に置き、日々の出来事に新たな喜びを発見することを指針といたしたく存じます。

2017年が良い年になりますよう、お祈りします。

（サレジオ会宣教師　倉橋輝信神父）

倉橋神父と生活困窮者の女性

DBK ドン・ボスコ基金

DBK［ドン・ボスコ基金］は、特に助けが必要な青少年の保護育成を支援する、サレジオの基金です。

サレジオ会の創立者ドン・ボスコの精神を受け継ぎ、貧困・家庭問題・災害等により、特に助けを必要とする青少年を保護育成する国内外のプロジェクトを支援しています。

DBKウェブサイト
「DBKだより」バックナンバーもご覧いただけます

DBKだより 第18号
2017年1月31日

発行人　山野内倫昭
発行所　ドン・ボスコ基金

〒160-0011　東京都新宿区若葉1-22-12
サレジオ会日本管区本部内
Tel:03-3353-8355　Fax:03-3353-7190
Email: dbkinfo@salesians.jp
http://salesians.jp/about/dbk

ご寄付くださる方は以下にお振り込みください。

郵便振替　口座番号
00190-5-292253
加入者名
ドン・ボスコ基金

次号からご寄付頂いた方々のお名前を掲載する予定でおります。掲載を希望されない方は、払込用紙の「匿名希望」欄に☑チェックマークをご記入ください。